

# あだち 広報

2008年  
(平成20年)  
12/3  
第1550号

毎月10日・25日発行 (1月は1日・25日)  
あだち広報は全戸配布です。配布もれは  
シルバ一人材センター (☎3855-3322)

●発行/足立区 ●編集/総務課  
〒120-8510 足立区中央本町1-17-11  
代表番号 ☎3880-5111  
区長へのファクス ☎3880-5678  
区長へのメール  
voice@city.adachi.tokyo.jp  
足立区ホームページアドレス  
http://www.city.adachi.tokyo.jp/

足立区ホームページ携帯向け  
サイトへの二次元コードです

**女性の人権を守る**  
男女の役割を固定的にとらえ、「男は仕事、女は家庭」というような様々な男女差別は、家庭や職場で依然として残っています。少子化や高齢化が進むこれからの社会を担うためには、女性と男性が対等の立場で協力し、責任も分かち合うことが大切です。また、職場におけるセクシュアル・ハラスメントや家庭における女性に対する暴力も、重大な人権問題です。

**子どもの人権を守る**  
家庭で親などによって行われる虐待、陰湿で執着する「いじめ」、学校における体罰、国内外での児童買春や児童ポルノのはんざなど、子どもの人権をめぐる問題は深刻な状況にあります。子ども一人一人の間として最大限に尊重されなければならぬというのを、大人自身が自覚しなければなりません。

**高齢者に対する人権**  
平均寿命の大幅な伸びや少子化などを背景として、我が国では5人に1人が高齢者となっています。こうした状況の中、高齢者に対する就職差別や、介護者等による身体的・心理的虐待など、高齢者をめぐる人権問題が大きな社会問題となっており、高齢者が自立した個人として生きがいのある生活ができるように接していくことが重要

**障がいのある人の社会参加と平等を実現しよう**  
我が国は、「障がいのある人も地域の中で普通の暮らしができる社会」という「ノーマライゼーション」を基本理念の一つとしています。しかしながら、障がいのある人に対する理解や配慮はまだまだ不十分であり、車椅子での乗車を拒否されたり、アパートへの入居を拒否されるなどの様々な人権問題が発生しています。障がいのある人と障がいのない人が対等に生活し活動できる社会にすることが大切です。

**部落差別をなくそう**  
部落差別は、日本社会の歴史の中で形づくられた身分差別に基づくもので、今なお結婚を妨げられたり、就職で不公平に扱われたりするなど、差別事例が後を絶ちません。国民の一人ひとりがこの問題について一層理解を深め、自らの意識を見つめ直すとともに、自己啓発していくことが必要です。

**外国人の人権を尊重しよう**  
近年の国際化時代を反映して、我が国に生活する外国人は急増していますが、言語・宗教・生活習慣などの違いから、就職差別やアパートやマンションへの入居拒否、公衆浴場での入浴拒否など様々な人権問題が発生しています。人権に国境はありません。国際社会の一員として、外国人のもつ文化や多様性を尊重する人が大多数ですが、性的指向に関し少数派である人々への偏見は根強く、社会生活の様々な場面で人権問題が発生しています。性的指向による差別や偏見をなくすことが必要です。

**外国人の人権を尊重しよう**  
近年の国際化時代を反映して、我が国に生活する外国人は急増していますが、言語・宗教・生活習慣などの違いから、就職差別やアパートやマンションへの入居拒否、公衆浴場での入浴拒否など様々な人権問題が発生しています。人権に国境はありません。国際社会の一員として、外国人のもつ文化や多様性を尊重する人が大多数ですが、性的指向に関し少数派である人々への偏見は根強く、社会生活の様々な場面で人権問題が発生しています。性的指向による差別や偏見をなくすことが必要です。

**性的指向を理由とする差別をなくそう**  
人間の性について、異性を愛する人が大多数ですが、性的指向に関し少数派である人々への偏見は根強く、社会生活の様々な場面で人権問題が発生しています。性的指向による差別や偏見をなくすことが必要です。

**性的指向を理由とする差別をなくそう**  
人間の性について、異性を愛する人が大多数ですが、性的指向に関し少数派である人々への偏見は根強く、社会生活の様々な場面で人権問題が発生しています。性的指向による差別や偏見をなくすことが必要です。

## 世界人権宣言60周年 育てよう一人一人の人権意識

### 人権週間 12月4日～10日

◆思いやりの心・かけがえない命を大切に◆  
「すべての人間は生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利について平等である」と述べた世界人権宣言が国連で採択されて今年で60周年です。しかし、最近、他人への思いやりの心が薄れ、自己の権利のみを主張する傾向が見受けられます。また、人の生命を軽んずるような痛ましい事件も多発しています。基本的人権の尊重を基盤とした社会ルールを確立し、個人の選択に応じた様々な価値観や生き方を尊重する社会をつくるのが大切です。

毎年12月4日から10日は「人権週間」です。この機会に、一人ひとりが身近なことから「人権について考えてみましょう。」

**性同一性障がい**  
16年7月、「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」が施行され、一定の条件を満たす場合には、性別の取扱

**性的指向を理由とする差別をなくそう**  
人間の性について、異性を愛する人が大多数ですが、性的指向に関し少数派である人々への偏見は根強く、社会生活の様々な場面で人権問題が発生しています。性的指向による差別や偏見をなくすことが必要です。

**性的指向を理由とする差別をなくそう**  
人間の性について、異性を愛する人が大多数ですが、性的指向に関し少数派である人々への偏見は根強く、社会生活の様々な場面で人権問題が発生しています。性的指向による差別や偏見をなくすことが必要です。

**性的指向を理由とする差別をなくそう**  
人間の性について、異性を愛する人が大多数ですが、性的指向に関し少数派である人々への偏見は根強く、社会生活の様々な場面で人権問題が発生しています。性的指向による差別や偏見をなくすことが必要です。

**表1 人権擁護委員名簿**

氏名	住所	電話(※1)
江川 勝	西新井五丁目	3546-7751
井 久仁子	西加平一丁目	3883-0558
森 公任	綾瀬三丁目	5540-8753
小林 利子(※2)	六木一丁目	3606-2165
小宮 孝之	千住旭町	3264-1721
金田 光邦	西綾瀬二丁目	3501-8734
田中 英雄	梅田二丁目	5226-2110
浅香 孝子	江北六丁目	3899-9357
松本 みち子	西新井栄町三丁目	3889-3234
寺山 みよ子	弘道一丁目	3886-6879
小池 修司(※2)	東伊興三丁目	3899-5415
近藤 悦子	血沼一丁目	3853-6543
大兼 雅榮	東保木間二丁目	3884-9111
乾 立健	扇一丁目	3896-6618
井立 健蔵	西新井五丁目	3896-0335
漆原 康次	関原一丁目	3852-5992
藤波 道子	西伊興三丁目	3855-2372

※1…電話番号は職場なども含んでいます  
※2…子どもの人権専門委員兼任

いの変更について審判を受けることができるようになります。一方で、性同一性障がい者に対する偏見や差別があります。性同一性障がいに関する理解を深め、偏見や差別をなくすことが必要です。

北朝鮮当局による人権侵害問題に対する認識を深めよう  
北朝鮮当局による拉致問題については、北朝鮮当局による人権侵害問題が深刻化しています。18年6月、「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」が施行されました。我が国の喫緊の国民的課題である北朝鮮当局による人権侵害問題への対処が国際社会を挙げて取り組むべき課題であり、この問題についての関心と認識を深めていくことが大切です。

人身取引をなくそう  
性的搾取、強制労働等を目的とした人身取引(トラフィッキング)は、重大な犯罪であり、基本的人権を侵害する深刻な問題です。我が国では「人身取引対策行動計画」が取りまとめられ、関係省庁が協力してこの問題に取り組みんでいます。人身取引の実態に目を向け、この問題についての理解を深めていくことが必要です。

## 小・中学生の いじめ110番

気がついたとき、  
すぐ相談を  
☎ 3880-5577  
教育委員会教育指導室

区内には、人権尊重の大切さを広める様々な啓発活動が行ったり、地域住民の皆さんの身近な相談相手として活動したりしている人権擁護委員がいます。人権擁護委員は、人権問題に根ざした活動を実践している人たちの中から、区長が協議の同意を得て推薦し、区務大臣が委嘱した民間の人たちです。区内には現在17人の人権擁護委員がいます(表)。人権問題でお困りのときは、一人で悩まず、お気軽にご相談ください。

平成20年度全国中学生人権作文コンテスト東京都大会立地区最優秀賞(敬称略、原文のまま)

互いに認め合う心

千寿 高葉 中学校三年

この世の中には、様々な人権問題があります。差別をはじめ、高齢者問題など、私たちがすぐそばには、多くの傷ついた人々が苦しんでいます。今も「助けてほしい」と苦しまっている人がいるかも知れません。

私が今回考えていきたいのは、「いじめ」についてです。人間はほんの些細な事で、相手の心を平気で踏みつけるような行動をします。「ムカつく」「キモイ」「死ね」など、不意に口を走る言葉が相手の心に深いキズをつけてしまいます。

小学生の頃、私はいじめに遭ったことがあります。私はハーフなのですが、無視されたり、陰口を言われたり、とても辛い毎日でした。私は何もしてないのに、流れていく血が違うとか外国人だからとか、おかしな理由をつけては自分自身に気がしている事を言われ続けました。今その事を思い出してみると「腹が立つ」というより、「どうしてだろう」という疑問がわき上がってきました。容姿が少し違うだけで、あとは何も違わない人間なのに、何故差別されたら、いじめられたりしなければいけないのでしょうか。私は、話したり、食べた

り、周りの人と変わらない生活をしていました。笑ったり、泣いたり、怒ったりして、周りの人と変わらない感情も持っていました。生活することを感じることも、生活する中で感じることも、見た目や人種の違いだけではない、誰に聞いても、正しいことではないはずでした。大人だっただけで、軽蔑するような目に向けて、子供だっただけで、いじめや人種差別が良い事ではないことは知っています。それが常識なので、はたしてそれは、本当に理解されているのでしょうか。表では「いじめなんてしてはいけないよ」と正義かぶっていても、裏で「あいつウザイからいじめよう」といっている人達が多いのが現実です。いじめは悪い事だと頭でわかっている、それを実行に移すことができない人間が、数多くいるのです。いえ、それが大半を占めているのかもしれない。自分自身でいじめを直接かかわっていない場合でも、もしいじめた人たちが見ても、もしいじめられたら、今度は自分がいじめられるかもしれない、恐怖感も募って、結局は「部外者」として見ている事しか出来なくなってしまう。やられている相手はただ泣きながら、じっと苦

痛を我慢するしかありません。心に傷を負いながら、一人で涙を流すのはとても辛い事です。悲しい事です。何故いじめがあるんだと、心の中で問いかけ続けているはずでも、いじめ差別をなくすことも、いじめをなくすことではありません。少しづつでも、なくす方向に進むことはできるはず。そのために、私たちに必要なのは、違う「ことを認め合う」という気持ちと「勇気」という武器。人自身も守れる強さを持つことだと思います。

私たちは、一人一人見た目も中身も全てが違います。自分自身に足りないもの、欠けているものは何かと考える時、それを持っていく人の良さに気づくのではないのでしょうか。人と自分の違いをいやなものとして排除するのは、良さと認めていくことと同じです。誰か一人と心の距離は近づいていくのだと思います。誰かが苦しんでいる時、その人が今の自分ができることを、勇気を出して実行しようとする人が、一人ずつでも増えていけば、いじめで苦しむ人は減っていくのではないかと思います。今の私には、大きな流れを変えていく力はまだありません。これから先も、そうした力を持つ

て、かどうか自信もありませんが、私の周りにいる人たちの心の距離を近づけ、認め合おう、少しの勇気を持って、辛い思いをしてくれる人のそばにいいたいと思っています。私が辛い思いをしてきた友だちのように、辛い時や悲しい時、苦しい時や泣きたい時そばにいて、一緒に考えてくれる人がいることが、きっと心の支えになるはずだから。人は一人で生きるものではなく、必ず誰かの支えの中に生きていくのだと思います。今後、私がいくら願っても、世界中の様々な人権問題は後を絶たないでしょう。多分今の瞬間にも、心を痛めて涙を流している人がいるはず。何か様子が変だなと感じた時、周りに苦しんでいる人がいるのに気づいたら、躊躇せずに手をさしのべられる人になりたいと思います。そうした積み重ねが、きっと状況を変えてくれるはずです。いつか人権問題がなくなると、その日まで、私は自分ができることを一つ一つ実行していこうと、心から思いました。

もう死にたい。自分なんていなければいい。何度そう思ったか。江南中学校二年 田中千裕

私を嫌ひ、私が嫌ったクラスの女子達は、私が嫌ったクラスの子と攻撃をやめてきた。今、冷静に反芻してみると、多少目立っていた私が気に入らなかつたのだらう。そのまま私は適当な生活をし作り笑いを見せ、嬉しそうな仲間を演じ、卒業したけど、過去の傷がそれを許してくれなかった。また裏切られるぞ、と。

中学に入学することを機に、私はありのまま生活しようとした。他人の為に作り笑いをしたくないから。自分の為に心から笑いたいから。と。夏休みが終わるくらいまでは普通に生活できていた。しかし、秋頃にクラス自体がすれ違った。仲を深める為の合唱コンクールなんて、逆にクラスの嫌悪感を大きくしていった。とうとう、私と仲良くしてくれていたかみえた友人

達には、固有のグルーブを作り始めた。私は小さい頃から遊びより習い事を優先してきて、中学に入ってからだっただけで、友達と遊んだことなんて、五回くらいじゃないだろうか。そんな私と、毎日のように一緒に遊んでいる他の仲間との差は確かに大きいだろう。やはり私は浮いた。先生や親に気づかれたくない。そう思い、一杯明るく振舞った。

しかし、結局は限界がくるのだから、中一の冬頃、私はどんでん返した。今は、友達につられてコロナ態度を変えたい周りの人間。いきなり私が死んだらどうだろう？心から悲しんでくれるだろうか？それとも、フリだけして、陰で喜ぶのだろうか？完璧な疑心暗鬼だった。誰も信じなくなかった。

その後私は、誰とも深く関わらず、周りに少し振り出した生活をしていった。自分で自覚する相対寂しい人間だったんじゃないだろうか。幼さだけが救いだ。深く考えず、ただ、ただの流れて共に生きていけたから。

私は嫌ひ、私が嫌ったクラスの女子達は、私が嫌ったクラスの子と攻撃をやめてきた。今、冷静に反芻してみると、多少目立っていた私が気に入らなかつたのだらう。そのまま私は適当な生活をし作り笑いを見せ、嬉しそうな仲間を演じ、卒業したけど、過去の傷がそれを許してくれなかった。また裏切られるぞ、と。

辛かった過去の自分も忘れずに心にしまつて。私は、私と共に生きていくんだ。私は、皆と共に生きていくんだ。これからは作り笑いじゃなく、心の底から笑っている。だから、今、今を踏み止まらず、昔の自分を抱きしめながら。

ししばらくすると、やはり周りの人間は元に戻った。結局一時的な感情で他人に迷惑をかける、それが人と同年代の人間の実態なんだな、と自分に言い聞かせた。とりあえず、嫌でもなんでも、私は生きないといけない。自分を裏切らない為に。裏切つたら、自分すら他人と同じではないか、と。決めた。自分勝手な奴等だから、一緒に歩みを進めよう、と。

第25回 人権ポスターコンクール 入選者 (敬称略)

- 【小学生の部】
  - ☆金賞 富田梨花 (栗原)
  - ☆銀賞 伊藤明花 (千寿常東)・奥野沙織 (弥生)・岡戸温子 (弘道)
  - ☆銅賞 佐藤永麻 (千寿常東)・眞田岬 (千寿第一)・阿出川真理 (上沼田)
  - 小谷野優紀 (栗原)・松尾若奈 (辰沼)・後藤満理奈 (西保木間)
- 【中学生の部】
  - ☆金賞 上杉優実 (第十四)
  - ☆銀賞 藤代菜美 (千寿桜堤)・後藤可奈絵 (西新井)・本多志歩 (伊興)
  - ☆銅賞 谷川まき子 (千寿青葉)・三浦夕貴 (第六)・荻原早希恵 (第九)
  - 山口優里 (第十四)・齋藤ありさ (江南)・川野詩歩 (東綾瀬)

このコンクールは、人権啓発活動の一つとして、広く児童・生徒の皆さんに人権の大切さを認識し、豊かな人権感覚を身につけてもらうために行っています。区内の小・中学生から334点の応募があり、厳正な審査の結果、次の方たちの作品が入選しました。



中学生の部 金賞 上杉優実 (第十四中学校) / 小学生の部 金賞 富田梨花 (栗原小学校)

平成20年度人権週間行事 「人権のつどい」

- 日時 12月4日(木) 午前10時～正午
- ※開場は午前9時30分
- 場所 区役所庁舎ホール
- プログラム 人権ポスターコンクール表彰式(小・中学生)/中学生作文発表/江森陽弘氏による講演
- 定員=400人(先着順)
- 申し込み=不要 ※当日直接会場へ
- 問い合わせ先=人権・同和係 ☎3880-5497

<江森陽弘氏のプロフィール> 1932年東京生まれ。テレビ朝日系列「江森陽弘モーニングショー」のメインキャスターとして活躍したジャーナリスト。人権、教育問題、高齢社会の抱える問題点などをさまざまな社会問題を取り上げ、各地講演や執筆活動を精力的にこなしている。